

校長室だより No.39 9月29日(火)

『ちびくろ・さんぼ』をきっかけに人種差別を考える

全米オープンで大坂なおみ選手がアメリカで暴力被害に遭った黒人被害者の名前を書いた7枚のマスクで登場し、話題を集めました。彼女はその行動で「人々が議論を始めるきっかけを作りたいかった」と語っています。本校の生徒にもこれをきっかけに人種差別問題に関心を持ってもらうために「おすすめ本コーナー」に絵本を並べてみました。

* * * * *

今回はアメリカでのアフリカ系アメリカ人への差別撤廃をもとめる公民権運動の高まりによって日本でも1988年に絶版となった『ちびくろ・さんぼ』(岩波書店版)とその原書『The Story of Little Black Sambo』を中心に、人種差別を考えるきっかけとなる本を集めています

選書する前に生徒にまず前提として『ちびくろ・さんぼ』を知っているか聞いてみたところ、知らない生徒が多くいることがわかりました。彼らが生まれたのは2002年~2005年。大人にはなじみのある赤い表紙の『ちびくろ・さんぼ』(旧岩波版)が瑞雲舎から復刊されたのは2005年であり、彼らが知らないのも無理はないかもしれません。



この『ちびくろ・さんぼ』以外にも黒人差別に関連する絵本には『彼の手は語りつぐ』、『むこうがわのあのこ』『ローザ』など心の窓を開いてくれるような作品が多くあります。是非高校生にも手にとって読んで欲しいと思っています。